

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	21-304	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Novel treatments for alcoholic hepatitis アルコール性肝炎の新たな治療法		
<b>執筆者</b>		
Margarita N German 1, Jessica Musto, Michael R Lucey		
<b>掲載誌</b>		
Curr Opin Gastroenterol. 2021 May 1;37(3):179-186. doi: 10.1097		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
副腎皮質ホルモン、顆粒球コロニー刺激因子、IL-22、n-Acetylcysteine		33769374
<b>要 旨</b>		
<p><b>レビューの目的：</b>本論文は、アルコール関連肝疾患（ALD）の治療法のアップデート、アルコール使用障害（AUD）の治療のALD管理への統合、アルコール性肝炎に対する肝移植の役割に関する最新文献をレビューすることを目的としています。</p>		
<p><b>最近の知見：</b>ALDは、AUDの有病率の増加と治療選択肢の少なさから、近年、肝移植の最も一般的な適応となっている。AUDを早期に発見し、その治療をALDの管理に取り入れることの重要性については、幅広いコンセンサスが得られている。アルコール性肝炎の治療の新しいターゲットとしては、腸肝軸、抗炎症剤、抗酸化剤、肝再生能を持つ薬剤などがある。特に糞便移植は1年後の成績が良好であり、副腎皮質ホルモン、顆粒球コロニー刺激因子、IL-22に加え、n-Acetylcysteineも短期的な成績の改善を示している。その他にも多くの治療法が臨床試験で研究されており、その結果が待ち望まれている。</p>		
<p><b>要約：</b>アルコール性肝炎とALDの治療には、臨床研究中の有望な治療オプションがいくつかある；しかし、断酒することが鍵である。他の有効な治療法がない場合、ALDに対する肝移植は、患者および移植片の生存率が高く、救命治療であることに変わりはない。</p>		